

令和7年度「未来の技能者育成事業」体験授業実施結果報告書

2025.7.22(火)

事業コード	25-G-01	学校名	郡上市立郡上東中学校		住 所	郡上市和良町法師丸196-1
実施日	6月5日(木)13:40～15:55				受講児童生徒数	35名(1～3年生)
開講職種数	3職種	指導者数	4名	参観保護者数	0名	

学校アンケートの結果

- 1 体験授業全体を通して、満足していただける内容となっていましたか
- ①多くの児童生徒が、講話に傾聴し、積極的にものづくり活動に取り組むなど、大変満足できる内容であった
- 4 貴校の児童生徒が将来技能者を目指すに当たっての課題や、ご意見があればお聞かせください

→ 技能者だけに限らず、近年、将来の夢や目標を持つことができない子供が増加しています。キャリア教育を通して将来のことを考えたり、本事業などを通して色々な人の生き方に触れたりしていますが、難しいのが現状です。ただ、本事業のように、その道を代表とする本物の職人に触れる機会は今の子供たちにとってはかけがえのない経験になると考えます。今の時代、インターネットを通して何でも見たり、調べたりすることはできますが、本物に触れる経験は乏しくなりつつあります。だからこそ、本物に触れて学ぶ機会はできる限り作ってあげることが、私たちの方針でもありと考えています。その中から一人でも多くの技能者(職人)を目指す生徒が出てくれば嬉しいと思います。

会場担当教員アンケートの結果(3会場の先生)

- 1 この体験授業にて児童生徒にものづくりの魅力や意義が伝わったと思いますか
- ①大変よく伝わった → 3 ②ある程度伝わった →
- ③あまり伝わらなかった → ④全く伝わらなかった →
- 2 児童生徒に対するキャリア教育の視点で、この体験授業の価値や要望について、自由にお書きください。

→ 専門的な知識を豊富に持っている講師から、直接話を聞いたり、指導をしてもらえる機会は貴重な経験です。特に中学生にとっては、将来の夢や目標を考える大切な時期に、そのような機会に触れることが一人一人の進路選択や将来の自分につながってくると感じます。その道を究めた職人の生き方に触れ、体験までできる貴重な事業を、さらに県内に広く周知し、多くの子供たちに伝わっていくことを望みます。
事業実施時期については、他の行事と重ならない時期を考え計画的に進めることで、もう少し事前学習などが十分にできたと思います。(学校としての反省事項ですが...)

指導者アンケートの結果(3職種の各代表)

- 1 今回の授業は指導者として満足できる内容になったと思いますか
- ①多くの児童生徒が、講話に傾聴し、積極的にものづくり活動に取り組むなど、大変満足できる内容であった 2
- ②興味関心を示さない児童生徒も少しはいたが、概ね満足できる内容であった 1
- ③興味関心を示さない児童生徒が多く、あまり満足できる内容ではなかった
- ④ほとんどの児童生徒が興味関心を示さず、まったく満足できる内容ではなかった

- 2 今後の業界における人材育成の課題についてお聞かせください。また、その課題の解決に関して、この体験授業の中でさらなる要望がもしありましたら、お聞かせください

・生徒が誠実に作業に取り組んでくれた。遠い帰り道に「行って良かったな」と思いました。
今後の業界における人材育成の課題としては、地方の小さな地区でもできる、自宅の部屋で作業ができる、暑くても寒くても製作が可能、家族との一家団欒の時間が増える、悪臭が出ない、騒音も出ないことなどが挙げられる。(印章彫刻職種)
・日常生活の中で普段目に見ている風景や手にしている商品に対し職業意識に関心があり、大変質疑応答が多く驚きました。体験授業も心に残る作業で良いと思いますが、広告に関する講話をもっとたくさんしたかった。
絶対音感3歳～6歳にピアノを習わないと身につかないと言われていました。スポーツも然り3歳～6歳ごろ兄弟が先に習っていた事で興味を持ち、早くから始めた人の方がオリンピック選手や芸術家が多い！出来れば小学生低学年から始めた方が良いでしょう。(広告美術仕上げ職種)
・学校では、ハキハキしゃべれる子供が発表する形が多いと思いますが、自分の想い・感じた事を相手に伝える大切さをこの機会に養ってもらえればよいと思います。
世界的に有名な刃物の生産地(ドイツ:ゾーリンゲン)が、近年では衰退の兆しが見られています。
大きな要因は、職人の減少と後継者不足で、若い世代の職人が減少していて技術継承が難しくなっている。
関市の労働人口の今後(2020年:約48,000人→2050年:約28,000人 20,000人の減少)からも分かるように、次世代への継承は急務の課題である。関の刃物ブランドを衰退させない為には、より多くの子供たちに興味を持っていただく事が重要と思っております。(ハサミ(刃物)製造職種)

会場別の指導者数・受講者数・児童生徒アンケートの結果

【児童生徒 アンケートの質問】 今回の体験授業全体を通して、どれぐらい満足されましたか

		印章彫刻	広告美術仕上げ	ハサミ(刃物)製造	合計(左:人 右:%)	
指導者数		1	1	2	4	
受講児童生徒数		12	11	12	35	
回答	とても満足した	12	10	12	34	97.1
	ある程度満足した	0	1	0	1	2.9
	あまり満足できなかった	0	0	0	0	0.0
	満足できなかった	0	0	0	0	0.0
	合 計	12	11	12	35	100

印章彫刻会場の様子



先生の感想

職業講話では「印鑑が持つ意味」について講話をいただきました。最近ではデジタル化が進む中、若い世代には印鑑の持つ意味や重みについて知らない人も多く、自分で彫刻した印鑑を使って、自分で書いた今年の目標に印を打つことで、そこに込められた決意や思いを込めることができました。また、一人一人の名前の漢字を切り出して、事前に象形文字を使って下書きをしてくれたことが、子供たちのモチベーションにもつながり、集中して取り組むことができました。体験授業の最後には一つのメダルを見せていただき、「このメダルを取るまでには、何回も挑戦をして失敗を繰り返し、あきらめずに挑み続けた証。だから、1回の失敗や挫折であきらめるのではなく、何度も挑み続けることが成功につながる。」ということ話をいただきました。日本を代表するマイスターが語る言葉には重みがあり、子供たちにとって本当に素晴らしい体験となりました。ありがとうございました。

児童生徒の感想

- ・学べる学校があることを初めて知った。小さな文字を彫っているところを見てみたかった。
- ・ハンコは高いもので1個何円ぐらいなのか、1個作るのにどのくらい時間がかかるのか知りたかった。
- ・自分のひらがなの名前を漢字にしてくださってうれしかった。少し繋がってしまった、削りすぎてしまうところもあったけど、納得のいくものができた。自分でデザインした物を削ってハンコにしてみたい。
- ・私たちは大きめの石に文字を彫っていたけど、盛光さんはもっと小さな石に文字を彫っていてすごいなと思った。また、篆書体という字の意味がすごいなと思った。
- ・見るだけだと簡単に見えるけど実際にやるととても難しくてどんどん手が疲れてきたけど、盛光さんはずっと続けていてすごいなと思った。
- ・しっかりと深く彫れるように何度も繰り返し彫ったり、細かい部分も工夫して彫れた。もっとたくさんのハンコを彫ってみたい。
- ・印章彫刻と聞いて、石ではなく、ゴムのようなものを彫ると思っていたので驚いた。篆書体というもの初めて見たのですが、象形文字のようで面白かった。
- ・2時間ほどで完成できるのかと少し不安だったが、「確認してほしい」と講師の方をお願いした際には優しく教えてくださって安心した。
- ・講師の方が「諦めないことは大事」と言っていて、確かにそうだなと思ったし、私も諦めずに色々なことに挑戦したいと思った。
- ・初めてハンコを作ったけど、細かい作業が多くて難しかった。でもきれいにハンコを押せた時はすごく嬉しくて、作って良かったなと思った。職人の方はもっと細かい作業をやっているのすごいと思った。
- ・ハンコは自分を証明するもので、同じ物は2つとないということを知った。
- ・世界に1つだけのデザインを丁寧に彫ることができた。大切にしていきたい。
- ・彫る時に教えてもらった「なるべく90度で彫ること」や、「深く彫ること」を意識できたので良かった。
- ・印章はものづくり体験を通して時間がかかることが分かったし、思いが込められていることがわかった。

広告美術仕上げ会場の様子



先生の感想

・職業講話ではプレゼンテーションを使って広告美術の仕事について説明を聞く。身近にある看板やテレビやCMで見る看板などを参考にしながら、作り方やデザインについて分かりやすく説明。最近ではパソコンで作製して印刷する方法が主流となってきているが、昔は全て手書きで看板を製作していた。そのため文字を書く技術が必要で何度も何度も練習をしてきた。実際に講師が大きな紙に筆で文字のレタリングを手本として見せてくれたことは大変良かった。

・レタリング用紙を準備していただき、基礎を中心に練習をしてから表札づくりを行った。製作している間、講師が一人一人に声をかけながら指導をして、上手く書くポイントを丁寧に指導をしていただいた。

児童生徒の感想

・看板作りの仕事をそもそも知らなかったの、新しく知ったことばかりでしたが、色々な所で活躍されているんだと分かった。

・大きい仕事から小さな看板まで手で書かれているものがあることに驚いたのと同時に、とてもきれいですごいと思った。

・レタリングなどの際、筆の使い方やポイントまで教えてもらいましたが、とても難しかった。それでも「この字いいね!」と褒めてもらえたのがとても嬉しかった。

・話を聞いて、柴山さんが自分の仕事をとても楽しんでやっていることや、自分の仕事に誇りを持ってやっていることが伝わってきた。

・字のバランスを揃えることや、特に曲がりを書くときの筆使いが難しかった。やっぱり看板屋さんはずいと思った。とても楽しかったの、機会があったらまたやりたい。

・広告美術仕上げという仕事を初めて知ったし、看板だけではなく、絵やヘリポートなども描いたりしていることを知ることができた。

・文字を書くときに文字と文字のバランスを考えたりするのは難しかったけど、とても楽しかった。

・看板などの字だけではなく、イラストを描いたり、おみこしなどを造ったりすることを初めて知ってすごいと思った。

・自分の好きなことを仕事にするという話がとても良いなと思った。

・難しかったけど、お手本を見せてもらった時にとてもきれいに書いていてすごいと思った。

・作る期間が長くて2ヶ月ほどだと聞いて、思っていたよりも全然短くてびっくりした。早いなと思った。

ハサミ（刃物）製造会場の様子



先生の感想

- ・職業講話では私たちの日常生活において刃物が生活の一部になっていることについて触れ、その反面、使い方を間違えれば人を傷つけてしまう道具でもあること。だからこそ、使い方を考え、生活をより豊かにするため、安心して安全に使えるものづくりに心がけている職業観について講話いただいた。
- ・体験活動では、生徒が安全に活動できるよう事前に準備がしっかりとあり、危険な作業は避けてできる体験内容となっていた。どうしても刃物を取り扱う危険性もあるため、キーホルダーの鏡面磨き仕上げも組み入れていただき、刃物を研ぐ作業ではないが、同じ研磨する体験を行った。最後に刻印作業もあり、生徒は十分満足することができる内容であった。
- ・複数の指導者によって指導していただき、安全に安心して取り組むことができました。

児童生徒の感想

- ・刃物の歴史を知れたし、SDGsにも関わりがあることが知れてとても驚いた。また、はさみの手入れの方法など、日常生活に活かせることが知れて嬉しかったし、活用していきたいと思った。
- ・はさみを作るときに、机に組み立てのやり方が書かれた紙が置いてあって分かりやすかった。キーホルダー作りではたくさん磨くこともして大変さを知れたし、アルファベットの刻印も打って嬉しかった。どちらも初めて体験するものだったけど、楽しくできた。
- ・ハサミが1つ1つ手作業で組み立てられていることを知って改めてすごいなと思ったし、ハサミの基になった道具は切るためのものではなくて、本当は挟むものだったということを知って驚いた。
- ・ハサミの組み立ては、締め具合を調整するのが難しかったけど、ツバキ油を塗ると滑りが良くなることが分かったし、キーホルダー作りはペーパーのかけ方などを教わりながら最後まで楽しく出来たのでまたやってみたい。
- ・刃物が関で有名なのは知っていたけど、「土・水・炭」が備わっているから作られるようになったことは知らなかったのが驚いた。
- ・はさみを作るとき、若干右利き用と左利き用で形が違うことを初めて知ったので印象に残った。金属のキーホルダー作りでは「光らせたい」と思って頑張ってこすることができたので、自分が想像していた物よりうまくできたと思う。
- ・講師の方が優しく楽しく教えてくださったので、時間が過ぎるのがあっという間だった。
- ・キーホルダー作りの際、やすりで研磨するだけであれだけきれいになったことに驚いた。
- ・刻印を打つときにずれないように打つのが大変だった。
- ・教えられた方法に沿ってハサミや刻印もできたり、ハサミの手入れやキーホルダーの研磨は自分の納得できるところまでできたので嬉しかった。
- ・刃物の歴史やはさみの由来を知れたし、日本刀や刀鍛冶から生まれた言葉で「相づちを打つ」などの言葉が生まれたということを初めて知った。
- ・ハサミを組み立てた後に、刃の部分にツバキオイルを塗ることや、キーホルダーを作るときに色々なやすりを使って削っていくということが印象に残った。
- ・ハサミは機械で作っているのではなく、人の手で1つ1つ作っているということが分かったし、年間で約3兆個のハサミを作っていることに驚いた。